

「もの忘れ」が 気になりだしたら...



スペクト SPECT検査で認知症の早期診断



“もの忘れ”と“認知症”どこがどう違うの？

年をとってくると誰でも「もの忘れがひどくなった」と感じてくると思います。これは老化現象のひとつで、病気とは違い生活をすす上で問題ははありません。

一方で、病気によって記憶や知能に障害が生じ、日常生活に支障を来してしまう場合があります。これが「認知症」です。この認知症の多くはアルツハイマー病と呼ばれる病気です。

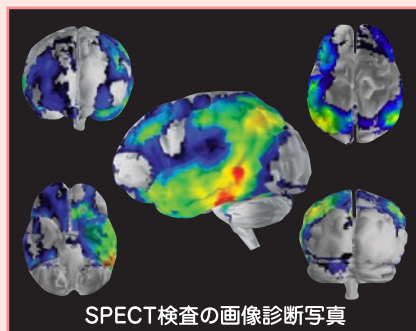
アルツハイマー病の初期の症状として「もの忘れ」があります。ただ、ここで大切なことは、老化による「もの忘れ」と区別することが必要だということです。

スペクト

SPECT検査で認知症を早期診断

SPECT検査は早くからアルツハイマー病による血流分布の異常を捉えることができ、早期診断に有効と報告されています。

詳しくは、
裏面をご覧ください



検査の結果、認知症だったら

アルツハイマー病の進行を遅らせる薬はあります。そこで早くアルツハイマー病を見つけて治療を行うことで、これまでとあまり変わらない社会生活をご家族の方と少しでも長く営むことができます。

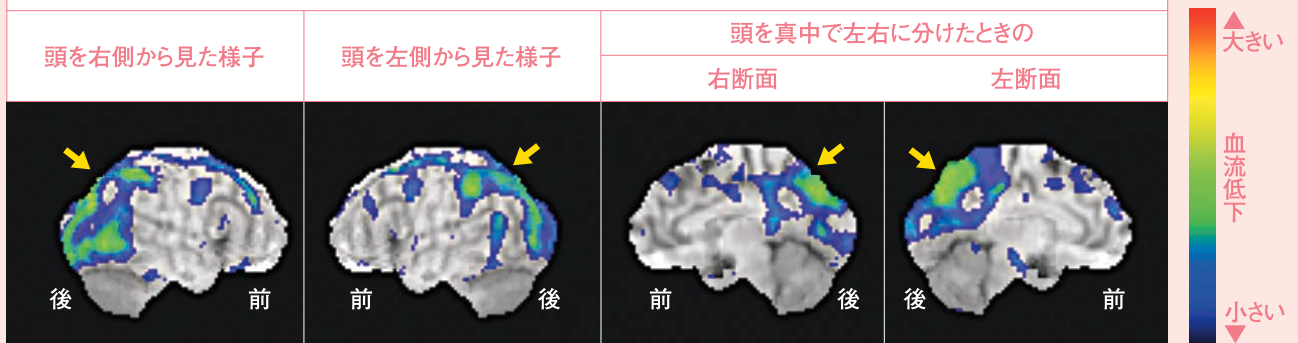


スペクト

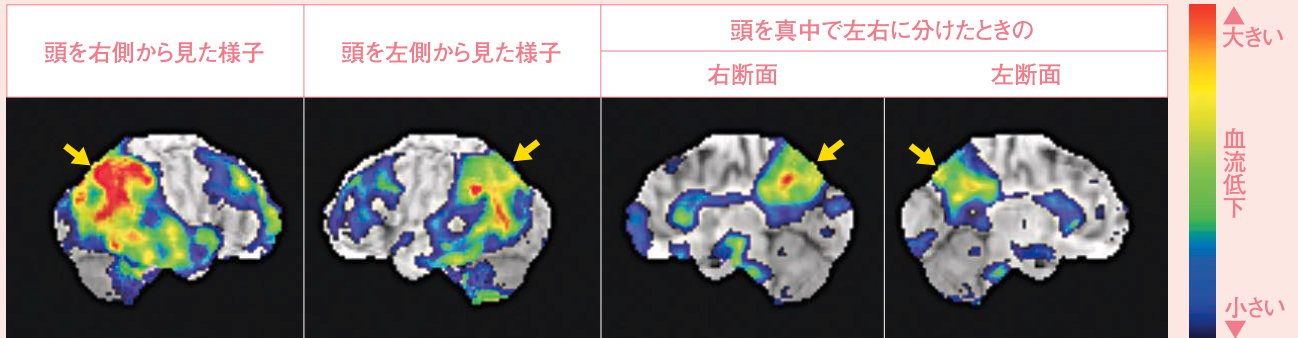
「SPECT検査」は 認知症の早期診断につながります

どの場所の血流が低下しているかみることでアルツハイマー病の早期診断に役立ちます。

アルツハイマー病になる患者さんは、もの忘れの段階で、アルツハイマー病と同じような場所での軽い血流の低下が見つかることがあります。



■アルツハイマー病の状態



ご自分やご家族の方の、もの忘れが気になったら、
早いうちに一度かかりつけ医、または近くの医療機関にご相談ください。

医療機関名